Yokoso Obara Iinkai

おばらのじかん

Take Free［0円］

第23号

2021 Summer

巻頭特集

田舎ならではの体験で

おばらを楽しむ！

おばらを感じる、体験する

［防災について、今一度、振り返る］

［小原が舞台！アニメシキザクラ］

［マンガ イカくんキンちゃんの小原日記］

［小原いろいろ情報］

小原人集まれ！「おばちゅう卒」

おばちゅう以外でもOK

www.facebook.com/obachuu

巻頭特集

おばらを楽しむ！

自然や暮らし、文化や芸術、おばならではの体験をご紹介します。

小原には豊かな自然があります。そんな日の前にある自然の素晴らしさを教えてくれる本が出来上がりました。たより「花さんぽ」50号記念【小原の里の花さんぽ】第1集です。今回は、毎月のたより「花さんぽ」を編集・発行しこの本をまとめられた、大平町の永井誠さんにお話を伺いました。

この本のタイトルにもなっている「花さんぽ」について伺います。「花さんぽ」を行うきっかけは何ですか。

私は小原で生まれ育ちましたが、3年ほど小原を離れていました。戻ってきた2012年に大平町の役員になりました。その当時の町内会長や役員は、大平町にたった一本花をつける『シデコブシ』の保護をしたいという強い思いがありました。

『シデコブシ』の保護と周りの自然を保全するため、とよた森林学校主任講師の北岡明彦さんを招いて年2回の自然観察会を役員中心に行ってきました。役員だけではなく、観察会に参加できない地域の人たちに大平の自然の魅力をもっと知ってほしいと思いました。そして、地域の人たちが元気になるように、子供からお年寄りまで参加できて花を探しながら、雑談を楽しみながら歩く「花さんぽ」を2017年4月から始めました。

そんな「花さんぽ」どのように行われていますか。

毎月第3土曜日の午前9時～午前11時ごろまで、大平児童館を起点に周辺をさんぽします。雨でもやります。

毎回題材を決め、事前に二人で下見をして安全や植物の状態などをチェックしています。初美さん（奥さん）が案内や植物の説明、自分は写真を撮るのが中心です。

決めたルートを、おしゃべりしながら花を探したり質問したりしながらのんびりと歩きます。「花さんぽ」は植物を覚える会ではなく、みんなと楽しさを憶える会です。

お二人とも植物に詳しいですね。

専門は違いますが、興味もあり前から学んでいたので基礎的な知識はあります。

なるほど。花や木の説明なども、細かくてとてもわかりやすいですね。最近では地域外の方の参加者も多いと聞きました。

初めの頃は、大平を楽しく元気にしようという町内の人たちが中心でした。最近は、大平や小原以外の植物が好きな人たちも増えています。

それでも目的はそれぞれ、いろいろな人が集まって、大平の自然に親しみ楽しんでもらいたいです。

この本は、たより「花さんぽ」がまとめられて作られていますね。

毎月の「花さんぽ」の後、たより「花さんぽ」は大平町全戸に配布しています。毎回「花さんぽ」に参加した人たちが見つけたものを書き記し、大平の人たちにも自分が住んでいる周りに普段気づかない素晴らしい自然がたくさんあることを知ってもらいたいと思って発行しています。中には参加できないけれど、毎月配布されるのを心待ちにしてくれている人もいます。とても嬉しいし、励みにもなりました。

そして今回、「花さんぽ」50回を記念して本にまとめました。改めて50回まとめたものを読み返してみると、ひとつひとつの花に思い出があります。

ここでちょっと、この本の楽しい見方をご紹介します。

まず、タイトル「花さんぽ」の題字の背景が年度ごとに変わります。題字も背景のイラストも、永井さんの手描き。猫や鳥のかわいい足跡も。さらに下の方には、さんぽしている人たちのイラスト。この背景も変わっていきます。これは、たより「花さんぽ」が、子供たちにも見てもらえるように、参加していない人でも見た人が少しでも「元気で、楽しく」なることを思う、永井さんのユーモアと心使い。その他にも…

【ひと休み】参加者のおしゃべりを中心に花とは関係ない話も飛び出します。

【おりおりの花だより】季節の花をピックアップ。

【大平の花シリーズ】など、永井さんの遊び心を探すのもオススメです。

最後に

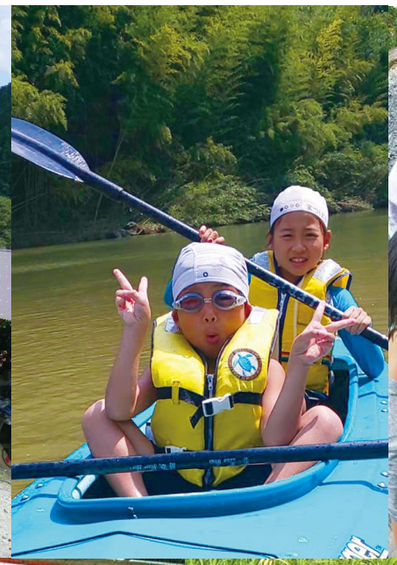
小原でも大平にしかない『シデコブシ』。英名『スターマグノリア（星の花）』。この花を保護することから始まった。こんな貴重な花があることを、大平の人たちに知ってほしい。その後「花さんぽ」が始まり、回を重ね今では地域以外の人たちも集い大平の魅力を伝えてくれる。一枚の「花さんぽ」の案内から始まった、たより「花さんぽ」は50号と回を重ね一冊の本になった。その間には、多くの人たちの応援があって、この【小原の里の花さんぽ】をつくることができ、この本は、私たちといっしょに棲んでいる花や虫たちの大切な記録になった。

今回の取材の中で「楽しいが伝わればいい＝楽しいの伝染」という永井さんの言葉が印象に残った。一人から二人、そして仲間さらに地域へ、ゆっくりでも少しずつ永井さんの楽しいは伝わっている。これは、ただ楽しいだけでなく永井さんのしっかりとした思いがあるからだと思う。

M.M

冒険にワクワク、ドキドキ
こどもだけで1泊2日の

田舎体験「いなか塾」



親は抜きで子どもだけで、農家の暮らしや自然を体験してもらうための『いなか塾』は、矢作川沿いの池野養鶏場とファームイン木&木を経営している、池野十誠さんが5年ほど前に始めた体験型のイベント。夏2回、冬1回程度開催しています。

子どもたちが参加する際は、原則ゲームやスマホの持ち込みは禁止。山も川もある自然豊かな地域での田舎暮らしを体験してもらいます。

夏の体験では、

☆竹切りから始める流しそうめん
☆鮎を自分で串に刺して炭火焼き
☆タマゴのつかみ取り
☆ニワトリさんエサあげ
☆自分で収穫する夏野菜
☆地元の体験をひとつ
（和紙漉き・鍛冶屋・風鈴絵付ｅｔｃ.）
☆生地から作る石窯ピザ
☆矢作川でカヌーやＳＵＰ満喫
☆お風呂はみんなで温泉
☆木&木で親がいないお泊り体験
など

自然に根ざした、いなか暮らしならではの料理・モノ作り・そして遊びを通して、子どもたちみんなで協力して行うことで、学校では学べない何かを学べるそうです。また、池野さんいわく、普段の生活は「あたりまえ」ではなく、実は、ありがたい事なんだと感じて貰う事をもうひとつのテーマとしているそうです。

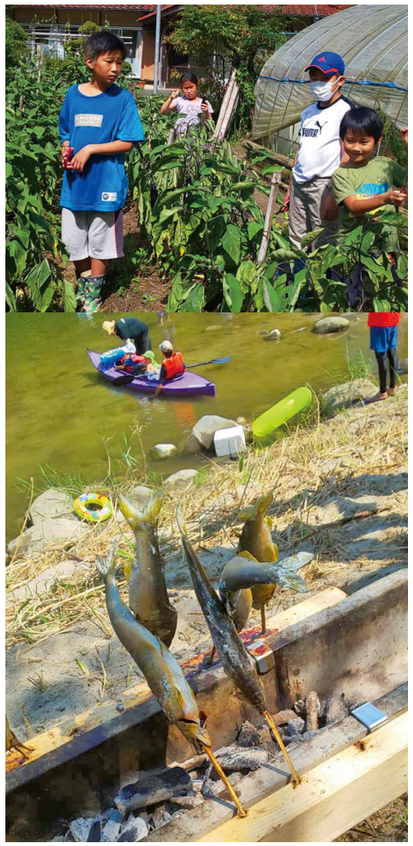
参加者さんはリピーターが多く、親の方からは、「心配だったけど、次の日イキイキとした顔が見れました」、「親と離れて泊まる経験をしてほしかった」、「初めて出会うメンバーと上手く過ごせるか不安でしたが、同じ時間や体験を通して楽しく過ごした様子で良かった」など好評を得られているそうです。

冬の体験は、毎年12月28日～29日と決まっており、廃鶏を捌き食べる食育体験・旭高原でのソリ遊び・石臼でつく餅つき体験をしているそうです。

田舎でも少なくなった自然に根ざした本来の田舎体験で、子どもたちの成長を目の辺りにできる「いなか塾」どうでしょうか？

お問い合わせは、いなか塾・池野十誠
０９０　１０７７　１９４０まで

T.S



ツーリズムとよた

あそぶ！食べる！つくる！

今年の夏・秋は、家族で、とよたいけん！

2021

ツーリズムとよたがPRする体験プログラムの中から小原ならではの体験をご紹介！

小原窯

自分だけのオリジナル作品を♪
家族で陶芸体験。（3歳以上）
料金：４２００円／人
所要時間：約２時間

和紙工芸体験館

小原地区の伝統工芸、小原和紙でつくる御朱印帳作り体験。
【お手軽コース】3歳 以上
料金：２０００円／人
【じっくりコース】7歳 以上
料金：２５００円
所要時間：約１～２時間

笹平工房

オリジナルスプーンまたは、アクセサリーに蒔絵体験。4歳以上
料金：４１００円／人
所要時間：約1時間３０分

ファームイン木&木

生地から作るマイピザ作り&自分で選べる産みたてのタマゴとり。
料金：中学生以上２５００円（タマゴ1パック付）
小学生～３歳　１５００円
（2歳以下無料）
所要時間：約４時間

ツーリズムとよたのホームページからじゃらんネットを経由して予約できます。是非体験してみてね！

小原に新しい体験型旅行業!? 三河里旅とは

鈴木孝典さんは、ロゴ、グラフィック、ｗｅｂ、動画と幅広い分野を手掛ける広告デザイナーとして東京や名古屋でキャリアを積み、２００７年に生まれ故郷の小原地区に戻り、「スズキ広務店」として独立。豊田市山間地域の仕事をメインに地元密着型の広告デザイナーとして活動してきました。そして、２０２１年４月に地域限定旅行業の資格を新たに取得し、地域や人の個性を観光資源とする「三河里旅」を開業しました。

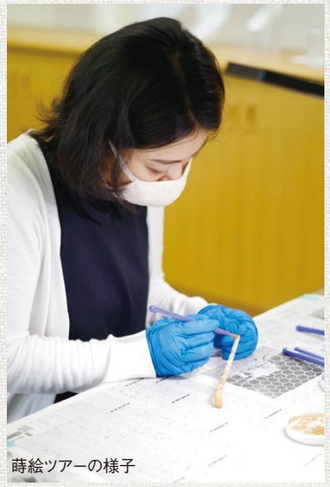
「三河里旅」の特色は、地域で暮らし地域を深く知るガイドが提案する、三河の山里でしか体験できない唯一無二の旅。三河里旅は豊田市の山間部、旧小原村を拠点に、三河の山間部のあまり知られていない、地元の人しか体験していなかった、ディープなローカルツアーを提案しているところです。そして、地域のいろいろな達人が〝地域プレミアムガイド〟として関わっています。

ツアー例として、このようなプランが行われています。

①小原の自然観察指導員さんと行く！
野草を学び・癒やされ、土産で夕飯のおかずツアー

おかずツアーの様子

②小原の漆芸家さんと
草花スケッチから始める癒やしの蒔絵体験ツアー


蒔絵ツアーの様子

③狩猟の世界を知ろう！
罠猟から解体まで全2回（ジビエＢＢＱ付）ツアー

※新型コロナウィルスの影響により、一部、実施を延期・中止しております。

鈴木さんが目指しているのは、「じもと愛を育む・循環型の体験観光ブランディング事業」。昔は、地域の中に〈仕事・暮らし・人〉が存在し、仲間意識も強く、地域に活気と愛着がありました。現在は、地域の外で働く人が増えたことで、地域との接点が少なくなってきています。小原地区には、四季桜や小原和紙などの観光資源にあふれ、それ以外にも地元の人以外には知られていない魅力がたくさんあります。それを地域の人と一緒になって掘り起こし、体験ツアーにして、ガイドやスタッフとして関わってもらうことで、一緒に地域を盛り上げていく狙いです。地域以外の人を「高付加価値のある観光」で呼び込み、地域の経済、暮らしによい循環を生む、地域が元気になる、地元愛を高める事業にしていきたいと話します。

今後は、小原地区以外の旭、足助、藤岡地区などでもツアーを開催予定とのこと。ここでしか味わえない個性豊かなローカル旅をぜひ体験してみてください。ホームページは「三河里旅」で検索できます。

Y.M

「防災について、今一度、振り返る」

来年の七月十二日、小原は50年の節目を迎えます。それは、小原が甚大な被害を被った「47災害」。土砂崩れ・川の氾濫・家屋倒壊が相次ぎ、32名の尊い命が奪われました。当時の事を親に尋ねると、父親が結婚した年で、母親のお腹には二か月になる兄を妊娠していたそうです。新築の離れの一階が土砂で埋まり、それからの日々は、消防団活動と我が家の復旧で長い時間が過ぎていったそうです。

最近では、お盆に襲った線状降水帯の影響で、九州・広島を始め多くの所が災害に見舞われました。47災害を経験された方は、その光景を、自分たちが経験した事と重ね合わせたと思います。災害はいつ起こるか誰にもわかりません。今一度、大切な命を守る為、防災について考えてみてはどうでしょうか。

【防災グッズ】各家庭には防災袋があると思いますが、中身を把握していますか？最低限のモノがひとまとめにされていれば、すぐに行動出来ます。そこで提案したいのが、ネットで販売している防災グッズ。食糧を含む35種類の避難グッズが購入できリュック付きです。中にはモバイルバッテリーやマット、ライトなど、避難生活に必要なモノまで。是非検索してみてください。

最後に47災害での体験文を紹介したいと思います。『「○○君が生き埋めになった！」その声で私は目が覚め、父はすぐ救助に。その直後、雷の様な大きな音がし、私の家は一瞬で無くなってしまいました。気が付くと辺りは真っ暗。見動き出来ず、動くのは左手だけ。その時、姉の呼ぶ声が聞こえ、「ここに、おるよ。」と返事をしました。しかし、母の声が聞こえず、姉と「お母さん、お母さん。」と呼び続けました。しばらくして、母の声が聞こえました、が、その声はありったけの力を出しているかのようでした。そのあとは「苦しい、苦しい。」としか聞こえません。姉は必死で歌を歌い続け、母と私を勇気づけてくれました。（当時中2）』

J.I

小原が舞台！アニメ シキザクラ

小原の四季桜が登場する東海エリア発のオリジナルアニメ番組『シキザクラ』。「オニ」と呼ばれる謎の怪物から世界の平和を守るため、少年少女たちが戦いながら成長していくバトルアクションで、東海地方を舞台にストーリーが展開されていきます。小原の美しい、神秘的な風景が重要場面で登場する予定ですので、お見逃しなく！2021年10月公開予定。

小原いろいろ情報

【10月2日(土)】軽トラあんどんパレード
17時半～（小原交流館発）パレードが始まって10年目、「祈りのあんどんパレード」として小原の里山を巡ります。

【9月7日(火)～12月5日(日)】豊田国際紙フォーラム
世界中のペーパーアートや、国内外から集めた紙の展示など、紙にまつわる展覧会が和紙のふるさと等で開かれます。

【10月10日(日)】小原花火大会
18時半～小原宴火の手筒花火と打ち上げ花火が見られます。四季桜ふれあい公園にて。（応募多数の場合は抽選となります）

おばら地区の物件を探すなら！
豊田市　空き家バンク　検索
www.city.toyota.aichi.jp/akiya/

小原の情報ページ（おばちゅう以外の人もOK！）
『おばちゅう卒』是非登録してね！
www.facebook.com/obachuu

STAFF 小原白字感　編集後記

春を足元から告げるスミレ。夏、虫たちが賑やか。いろいろな形のドングリを見つける秋。葉の落ちた木々から冬芽をさがし、春を想う。暮らす日々を楽しくする方法は以外に近くにある気がした。

M.M（今号編集長）

今年の春に小原へ移住してきました。その後押しになったのが実はこの「おばらのじかん。」本号編集に携わることができたご縁に感謝でいっぱいです。まだまだ知らない小原。これからゆっくり楽しんで知っていきたいです。

Y.M

今回、改めて47災害の記録を読み、災害の怖さ、復興までに多くの援助の元、今の小原が有る事を実感しました。最近の小原はただただ、天気の巡りに恵まれているだけで、紙一重とも思いました。

J.I

今回は小原でできる体験を中心にまとめました。調べるといろいろな体験ができるようになっていました。少しずつ小原も変わってきたのかなと、期待感があがりました。体験を通して小原との関係をもってほしいです。

T.S

ようこそ おばら委員会
発行:2021年9月【ようこそおばら委員会事務局 豊田市役所 小原支所】
〒470-0592 愛知県豊田市小原町上平441-1 Tel 0565-65-2001 Fax 0565-65-3695
E-mail：obara-shisho@city.toyota.aichi.jp　今後、本誌の郵便を希望される方はご連絡ください。